

### 第3回万葉文化館授業づくりセミナー 概要広告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 平成30年9月15日(土)10時30分～12時
- ◇会場 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 繁田・石原・新宮(平城小)、中澤(平群北小)、井上(万葉文化館)  
北村・中澤(奈良教育大学)

#### ◇内容

##### 1. 「いにしえから学ぶ ～わたしの夏～」平城小学校教諭石原宏一郎

目的：自らの感想を言葉で表現できる力の育成

##### (1) 導入 夏の思い出 と 夏の万葉集：周りの様子を切り取った歌

卯の花の 過ぎば惜しみか 霍公鳥 雨間も置かず こゆ鳴きわたる  
天の川 霧立ちわたり 彦星の 楫の音聞こゆ 夜の更けゆけば  
天の海に 雲の波たち 月の船 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ

◇音読を繰り返し、リズムを楽しませる

◇文法などにはこだわらない。解釈よりも感性、イメージ化を重視する

※季節ごとに万葉集歌を検索できる(巻8と巻10)

※この時代にはまだ季語はない。



##### (2) 古典へのアプローチ

- ・子どもたちが古典に近づいていく
- ・古典を子どもたちに近づけていく ← こちらを重視  
万葉集：表現に特徴がある。今の表現に近いものがある。

しかし、子どもとの距離がある。そこで、現代詩の鑑賞を加えた「入道雲」

入道雲：夏の様子が伝わる

現代詩の入道雲と対比することで、万葉集歌の理解が進む。学びに向かう動機づけ。

子どもの感想

なんとなく伝わってくる。想像できる。1300年前の人も同じこと(表現)、不思議だなあ。

伝わっていることがすごいと思った。1300年前のものなのにきれいな言葉を使っている。

5・7・5の方より5・7・5・7・7の方が難しい。

古代は長歌が普通。5・7でつなげていく。5・7で続けていき、おしまいに7を足す。

うらしまたろうはその形式になっている。

文字のない文化なので、リズムが大切。

枕詞はインデックスの役割 あをによし とくるところから奈良の歌 だよ

##### (3) 歌の創作

材料集め 周囲の様子を表す言葉 目・耳・鼻・手・口

伝えたいこと（感じたこと・思ったこと）をまず明確に

「言いたいんだけどしっくりこない」→交流→語彙を増やすことに

※最も適切な（自分の思いや感性を伝えるために）表現方法について、子ども同士の意見交流を促すことで、①表現方法・語彙が豊かになる、感じ方の多様性に気づくことができる。

#### （４）万葉集を用いた効果

- ・きれいな言葉が強烈に残っていて、それが子どもの学びのエンジンになった。万葉集歌がモデルになった。解釈にこだわらなかったのがよかった。
- ・五感から入っていったのが子どもにはよかった。
- ・受け継がれてきたのは、そのまま残すと別にその時代その時代の解釈や変化もあった、古典文化の多様性、多様なものとして受けとっていく。これしかない、絶対的なものとしてとらえるのではなく、変化するもの、これからも自分たちで解釈していいもの。
- ・「ヤバイ」などの最近の言葉については、言葉として貧困。認めつつも、古典に出会わせることで古典の語彙も獲得できる、表現が豊かになる。
- ・古語が方言に残っている場合がある。
- ・感情は 1300 年前も同じ。背景は異なっている（時代の変化で常識も変わる）。子どもの意外性が、学習の切り口になる。

#### （５）教材研究のしかた

古典に関しては、「おもしろさ」「つながり」をもとめたい。

指導要領の指導事項にどのようにすれば対応するものにできるかを考えなければいけない。

類似点を探すことで「つながり」を見だし、切り口とする。

#### （６）万葉集について

万葉文化館は言語文化とその背景となる社会事象を研究するところ。

万葉集や古事記、日本書紀を書き残そうとしたきっかけは、百済滅亡で多くの渡来人がやってきたこ

とで、海外文化にふれたこと。海外文化に触れ、あらためて自分化を見つめ直すことになったのでは。



#### （７）掲示の教育的活用について

子どもにとって発信の場として用いる

掲示物を用いた交流について

- ・観点を示す
- ・付箋に書かす（プレゼントとして）。
- ・モデリング
- ・できあがってしまったものに対してはホメホメタイムでいい。同じことをしないとすぐには使えない。完成する前にまねさせる、自分の表現に生かす時間をもつようにする。

(8) その他

・万葉子ども賞コンクール 冬休みの宿題の時期 モチベーションになる。

作文と絵画の部門があり、小学生～中学生が対象 (添付資料参照)

・井上先生の新著『スッキリわかる!マンガはじめて読む古事記と日本書紀』

(井上さやか監修、ナツメ社、2018年10月4日発行、1350円)

※次年度は万葉集だけでなく、古事記、日本書紀の教材開発もテーマとしてセミナーを開催したい。

次回は11月23日(金・祝)10時~12時です。指導案の相互検討を行います。